

## はじめに

加齢黄斑変性という病気は最近テレビや新聞などでも取り上げられることが増え、名前を聞いたことがある方も少なくないかもしれません。しかしながら、目の病気の中でも白内障や緑内障は一般の方にもよく知られていますが、加齢黄斑変性はまだまだ馴染みの少ない病気ではないでしょうか。

加齢黄斑変性は突然発症し、急速に視力が低下し、テレビが見えにくくなり、字が読めなくなるなど、日常生活にたいへん大きな影響を与える病気です。欧米では成人の失明原因の第1位であり、日本でも患者さんの数が増加し、失明原因の第4位となっています。一方で加齢黄斑変性は早期に発見し、早期に治療を行うことで、視力の低下を防ぎ、視力が良くなることも期待できる病気です。実際、海外のデータでは、治療の導入により加齢黄斑変性で失明する患者さんの数が半分程度に減少したと報告されています。

この本は一般の方を対象として、加齢黄斑変性について、病気の説明、診断方法、治療方法や予防法、さらに紛らわしい病気などについて正しく理解していただくために簡潔に説明したものです。一部、難しい内容もありますが、加齢黄斑変性についてなるべく一般の方にもご理解していただけるように解説するよう心がけました。2010年に出版した初版から6年が経過し、その間に診断方法や治療法にも大きな変化がありました。改訂版ではその間の進歩を踏まえて研究中の治療法なども含め、最新の情報を紹介しました。

この本を読み、加齢黄斑変性について正しくご理解いただき、早期発見・早期治療はもちろんのこと、予防にも役立てていただき、良好な視力と健康な生活の維持に少しでも役立てば、望外の喜びです。

2016年2月

大路 正人・高橋 寛二・五味 文